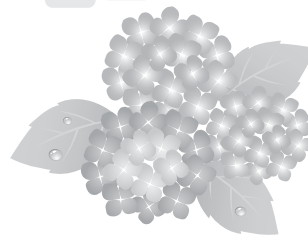




女性医師支援センター便り

みんなで子育て！



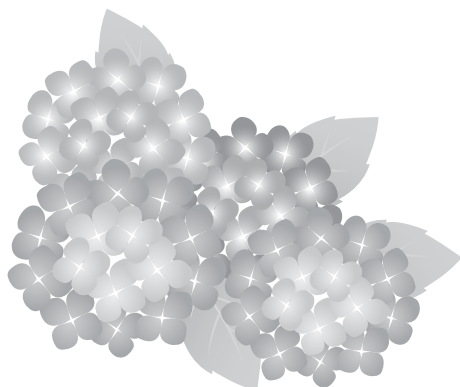
今回は勤務医である筆者が女性医師支援センターでの活動を通して考えたことを書かせていただきます。

県内のある施設で、筆者が勤務する施設での女性医師支援の取り組みをお話しさせていただいた時のこと。医師として中堅の年代の男性医師がおっしゃっていました。子育てに協力してきたつもりだったが、配偶者には何もしてくれなかったと言われてしまったと。その方に対し、それであれば、今後子育て中の女性医師を積極的に支援することで、子育てに参加し直していただきたいとお話しさせていただきました。

医師の仕事は社会的に評価が高い仕事です。出産後に医師の仕事迷わず続けようとする女性医師は、仕事にやりがいを感じていることでしょう。しかし、子育てというのも医師の仕事と同様、あるいは医師としての職以上にやりがいがあり、面白く、大変な仕事だと筆者は個人的に考えています。子育てあるいは専業主婦、それだけでも一人の人間がこなすのは大変な仕事。それなのに女性医師は子育てと医師としての職を両立させようというのだから、なんと欲張りなことかと思ってしまう。

女性医師支援を考える時、必ずそれをフォローすることになってしまう同僚医師の労働環境が話題となります。もちろん、医師全体の労働環境が改善されるべきなのは言うまでもないことです。しかし、子育て中の女性医師をフォローする立場にある方には是非こんな風に考えていただきたいのです。同僚の女性医師をフォローすることでその方のお子さんを健全に育てることに十分貢献しているのだと。母親の精神的な安定は子供の心を健康に育てます。あなたが同僚女性医師の仕事フォローしたことで、あの子の笑顔が増えたのです。

子供は、社会の、国の、地球の財産です。皆で大切に子育てすることに疑問を持たれる方はいないでしょう。自分の協力が子供を健全に育てることにつながることに誰もが喜びを感じることができるはず。社会全体で豊かな子育てをできる、そんな成熟した社会になるお手伝いになったらいいな、と思いつつセンターの活動に参加しています。



国立病院機構仙台医療センター産婦人科
宮城県女性医師支援センター委員
石垣 展子